

## 高山市まち研準備会からの報告

## 日本で一番面積の大きな市・高山市から ②人口動態

長谷川 洋二 (当研究所事務局長)

高山市の人口動態を見ると、転入者より転出者が多い転出超過の傾向が続いていることである。(ただ、2005年の市町村合併により、合併市町村間の転出転入は、転居扱いとなっているため、注意する必要がある。)

高山市の人口の社会的増減をみると、転出超過が続いていたが、1994年ごろから転入超過になったり、転出超過になったりしていた。しかし、2003年ごろから、毎年400人前後の転出超過が続き、人数に増減はあるが現在に至っている。

高山市の自然動態の状況は、死亡の数の増加が続いていて、2004年には出生数を死亡数が上回り、自然現象の状態が続いている。高山市の合計特殊生率は、1.67であり、全国の1.43、岐阜県の1.45を上回っている(2013年)。しかし、再生産年齢人口の減少などにより出生数が減少していることが理由として考えられる。

こうした状況の中で、高山市の人口動態が目立つのは、若年層の減少である。表の「15～19歳」の人数から「20～24歳」の人数が15～30%減少している。原因は、進学、就職による転出が大きな原因である。このことは、隣の飛騨市でも同じような傾向がみられる。例えば、表の1980年に「0～4歳」の人口は6,766人であったが、5年後の1985年には「5～9歳」は6,807人に、1990年には「10～14歳」は6,747人に、1995年には「15～19歳」は6,575人に、2000年には「20～24歳」は4,665人、2005年には「25～29歳」と5,489人となっている。「15～19歳」から「20～24歳」になるときに大幅に減少している。「25～29歳」になっても減少前の数字には戻っていない。これは、若年層が転出しても、転入してきていないことが原因であると考えられる。転出先は、岐阜県内が37.2%、愛知県が21.3%、東京都が6.7%となっている。岐阜県内では、

高山市の5歳年齢階級別人口の推移

	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	95,037	96,459	95,859	96,680	97,023	96,231	92,747	89,182	85,238	80,959	76,501	71,946	67,393
0～4歳	<b>6,766</b>	5,757	4,935	4,833	4,898	4,573	4,030	3,548	3,180	2,834	2,658	2,524	2,415
5～9歳	7,993	<b>6,807</b>	5,844	5,083	4,835	4,817	4,459	3,989	3,570	3,111	2,773	2,601	2,469
10～14歳	7,159	7,976	<b>6,747</b>	5,888	5,092	4,799	4,778	4,435	3,877	3,537	3,083	2,748	2,577
15～19歳	6,579	6,705	7,420	<b>6,575</b>	5,383	4,802	4,183	4,172	4,101	3,606	3,289	2,867	2,555
20～24歳	4,672	4,822	4,616	5,520	<b>4,665</b>	4,012	3,018	2,754	3,608	3,434	3,018	2,749	2,395
25～29歳	6,240	5,365	5,281	5,560	6,580	<b>5,489</b>	4,348	3,618	3,365	3,813	3,631	3,201	2,918
30～34歳	8,129	6,374	5,426	5,715	5,868	6,809	<b>5,486</b>	4,484	3,276	3,371	3,817	3,633	3,204
35～39歳	6,962	8,174	6,415	5,569	5,812	5,779	6,510	<b>5,399</b>	4,219	3,190	3,281	3,716	3,537
40～44歳	6,831	6,931	8,135	6,429	5,640	5,746	5,634	6,483	<b>5,185</b>	4,138	3,130	3,219	3,646
45～49歳	6,921	6,733	6,842	8,151	6,446	5,507	5,663	5,603	6,267	<b>5,114</b>	4,083	3,088	3,177
50～54歳	6,681	6,811	6,663	6,796	8,119	6,380	5,447	5,533	5,474	6,181	<b>5,046</b>	4,030	3,050
55～59歳	5,288	6,587	6,638	6,578	6,670	7,993	6,237	5,366	5,457	5,351	6,045	<b>4,937</b>	3,947
60～64歳	4,286	5,134	6,346	6,495	6,454	6,533	7,815	6,136	5,163	5,310	5,213	5,890	<b>4,814</b>
65～69歳	3,848	4,053	4,927	6,034	6,175	6,174	6,248	7,529	5,819	4,969	5,119	5,031	5,687
70～74歳	3,053	3,497	3,740	4,554	5,616	5,779	5,806	5,857	7,101	5,520	4,726	4,880	4,805
75～79歳	2,095	2,556	2,937	3,239	4,016	4,971	5,150	5,210	5,372	6,501	5,064	4,353	4,514
80～84歳	1,086	1,467	1,849	2,203	2,588	3,271	4,174	4,323	4,513	4,670	5,705	4,459	3,861
85～89歳	354	571	861	1,083	1,481	1,796	2,369	2,966	3,295	3,446	3,621	4,495	3,533
90歳以上	93	139	236	375	676	991	1,278	1,665	2,396	2,863	3,199	3,525	4,289

国立社会保障・人口問題研究所の『日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)』参考

岐阜市、飛騨市、下呂市への転出が多くなっている。高山市には、高校学校が4校ある(公立3校、私立1校)。大学は、自動車短期大学が1校あるが、市外への進学や就職するものが多いことが主な理由となっている。

高山市の昼夜間人口比率は、1.01であり、基盤産業があり、就職等の機会が他よりはあると考えられるが、一度転出した若い人たちが転入してこないという現状がある。高山市のアンケートによれば、「転出きっかけ」は「進学」「就職・転職」の順であり、「Uターンのきっかけ」は「就職・転職」が一番多くなっている。Uターン時に心配だったことは、「転職による収入の減少」など生活に対する不安などである。

若い人口の減少は生産年齢人口の減少であり、地域の労働力、地域経済が衰退し、市税をはじめとする行政への影響も大きい。また、高山祭など多くの文化活動の継承が難しくなり、衰退も招くことにもつながっていく。

